

# 筆山

第27号 / 1999年12月

土佐中・高等学校同窓会 関東支部会報

編集人/西岡 恒憲 (41回)

〒106-0032 東京都港区六本木3-16-12-7F 六本木司法書士合同事務所気付 TEL 03-3587-6200 FAX 03-3587-6201  
E-mail : tsuruwa@mxq.mesh.ne.jp 関東支部ホームページ : www.2u.biglobe.ne.jp/~tsuruwa/kantosibu.htm



五台山から見た高知の町 (関東支部HPより)

思い出すまめに

安藝 勉 (8回生)

一 筆山について  
私の生まれ育った高知市には筆山という可愛らしい山がある。軸太の筆が静かに横たえられた様子でもある。小さい山ではあるが市内では殊更有名であり、在学中は時々流れる大汗をふきふきクラス毎に懸命に登らされたものである。

筆山の麓鏡川の畔とは我が土佐中学の所在する所であり、その筆山並に母校は共に鏡川の南側に位置している。

二 故修兄について

おがましいことであるが、修兄は実私の長兄で土佐中学の第1回生であり、同期最後の生き残りであったが、本年8月1日老衰にて九十一歳の寿命に終りをづけ、第1回生は遂に一人も生存しなくなつたと聞く。残念なことである。私の属する第8回生さえも既に十名足らずの生存者を数えるのみ、淋しい限りであるが、人間寿命には勝てないものであつてみれば之亦致し方もあるまい。

三 初代校長三根圓次郎先生について

初代の三根校長は昭和10年3月18日急逝されたが、目の病気のため既に全く見えなくなつたものの、温存のもと眼光更に鋭く、私達は帰郷時母校に必ず校長をたずねたものであるが、声で識別されたものが、鋭い御注意にはいつもびくびくしていたものである。

御長男は今も亡き超有名歌手ディック・ミネさん(三根徳一氏)であつたのは改めて言

う迄もないであろう。

四 三根校長の校葬による告別式について

私が東京の大学一年を終り、楽しみにした春休みに帰高した時、なんとということが、思いもかけない同先生の御逝去にぶつかり、校葬としての告別式に出席、卒業生総代として弔辞を読まれたものである。どういふものか私より年次が上の卒業生が誰一人として帰高しておらず全くやむを得ないことでもあった。国語担当の樋口一治先生の御指示にて徹夜で乱れ文字も顧みず墨書した弔辞を翌日の告別式で読み上げたのであるが、冒頭から、とめどなき涙にあふれ、とぎれとぎれの読み方には我ながらあきれはてたもので、列席の方々には誠にお聞きづらかったことであろう。

その後同窓会から出版された(昭和18年6月30日付)三根先生追悼誌には弔辞としては兄の修名となっているのは編集者の方が、8回生の私でなく、それよりも1回生の兄の名前がより妥当との配慮であったのではなからうかと思われるのであるが、事実は今述べたとおりである。このこ

とは何年か前の筆山誌上にて申し述べたことがあるので御承知の方もあるかと思われる。

五 先祖の歴史上実在証明について

私の三年生の頃だったか、樋口先生から教わっていた平家物語の中の源平壇の浦の合戦の一部分に於て、平能登守教経という平家随一の猛将(百人力といわれた)に追いつめられた源義経が海上で船を身軽く次々と飛び移って逃れて行った八艘飛びの場面、その教経をささざるべく左右から彼の船にとび移り、彼に両わきからとびかかって行った二人の武者(義経の家来)が居た。それが安藝の太郎(五十人力)、次郎(二十人力)という兄弟であったが、力まされる教経はこれを両脇に抱えこみ、三人組合つたまま海中に落ち、共に戦死したと記されていたが、その時先生から「これはお前の先祖とちがうのか」と尋ねられて知らなかった私は全くのところどう答えてよいか分からず驚いたが、実は当時我家の押入の中に虫にあちこち喰われて穴の沢山あいた和紙製の系図が入っていたのをおぼろげに

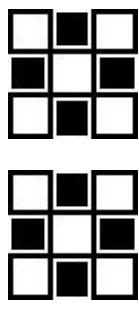
知っていたので、下校してよく調べたところ、問題の場面で確かに太郎次郎の両名の名前の左下に、はつきり「壇の浦において能登守教経と共に入水す」と註記されていたのが分った。翌朝職員室にて先生に深くお詫びをした記憶がある。そしてこの二人の先祖には何がしかほのかな親しみをおぼえたものである。この時先生のその御質問がなかったなら、詳しいことは一切分らずじまいとなっていたことであろう。世の中とは全く不思議なものである。

六 おわりに

母校には兄弟生徒が割合と多く学んでいたものであるが、余り優秀でもなかった私にとつて、特に優秀な成績を残していた兄が1回生として居たため、古い先生方の中に、兄を教えたり、知って居たりしていた先生がまだ残って居られたことが私の立場からは大変恥かしかつたことが思い出される。その先生方から折にふれ兄の話が出ると、それが励ましの意味であったと感じたにせよ、随分と心苦しかつたものである。何くそと自らを極力鞭打ち何とか兄と同じ上

級学校の過程文でもくぐり抜けたことが今にして思えば本当に有難く感謝の気持ちに強く通ずるものがある。兄弟とは正にそつういふものであろうか。

そこはかとなく、とりとめのないことを思い出すままに茲に綴つたことを何卒御容赦願いたいものである。私の入学した頃南面であつた正面玄関も今は北面となつている母校・・・、その更なる発展を心から祈つてやまないしだいである。



### 関東支部活動報告

事務局長 鶴和千秋(41回生)

前号で詳しくご報告致しました6月の支部総会、多数のご参加のおかげで、他支部本部からの参加者に大きなインパクトを与えたようでした。「うちの支部でも学生の出席をもっと増やさんといかん」等、続々と反響が寄せられました。

今年後半の関東支部の動き

を、以下にご報告致します。  
学年幹事会  
昨年の学年幹事会で提案された「支部規則15条の改正案」が、今年の支部総会で承認されました。

支部総会の開催時期が5月下旬もしくは6月上旬に移行したことに伴い、関東支部の会計年度および学年幹事会の開催時期を変更しようというものです。  
第15条 この会の会計年度は、毎年1月1日から12月31日までとする。

この結果、毎年9月に開催されていた学年幹事会が、毎年2月に開催されることになりました。次の学年幹事会は平成12年2月26日(土)の開催となります。学年幹事の皆様には1月中旬にご案内を差し上げます。

また来年の関東支部総会は、平成12年5月27日(土)に今年と同じ渋谷区代々木の「国立オリンピック記念青少年総合センター」で行います。来年は末尾「0」の回生(30回生・70回生)の方々に担当していただきます。ご期待ください。

母校創立80周年  
本年8月7日(土)高知市

内新阪急ホテルで開かれた同窓会本部総会に宮地支部長、溝淵幹事長以下7名の役員が出席しました。会議では母校創立80周年の記念事業について検討されましたが、その中で関東支部では一つの提案をして参りました。

昨夏発行された本部会報『向陽』の創刊号に母校の坂本隆先生(47回生)の「戦地からの軍事郵便」という一文が掲載されていました。

昭和12年から戦地に招集される17年までの5年間、母校で教鞭を執られた中澤薫先生(4回生)の、母校への愛情と、教え子達との心の交流の記録を発掘し、その軌跡を忠実にたどる作業の中から、土佐高教育の原点をもう一度見つめ直そうという、坂本先生の母校への熱い思いに溢れた力作でした。

今年に入り、これを一冊の本に纏め上げたいという坂本先生のご意向を知り、関東支部役員一同は、この本の出版こそ80周年記念事業に相応しいと考えて一致し、本部各支部の役員の皆様の賛同を得ることが出来ました。来年11月の記念式典までには上梓される予定です。

### 筆山会

関東支部の比較的年配の同窓生の集りである「筆山会」の会長が交代になりました。関東支部の前の支部長で永く筆山会の会長を務められてきた北岡龍海さん(5回生)の「若手」に道を譲りたいとお考えで、16回生の吉澤信一さんに引継がれました。新体制となった筆山会の重厚かつ若々しい活動にご期待ください。

同窓会館建設基金  
溝淵幹事長の提案で、5年前からスタートした同窓会館建設基金は、平成11年10月末現在で、金一、九四六、六一六円となっております。この1年間には、6月の支部総会に出席された方々、筆山会の新年会やゴルフコンペに参加された皆様、一木会に集まった呑ん兵衛諸君などから、合計金一八八、七八一円のご寄付をいただきました。ありがとうございます。

なお基金の振込口座が、四国銀行東京支店(普)口座番号〇二二三八二一、土佐中・高同窓会館建設基金」に変更になりました。今後とも同窓の皆様のご協力をお願い致します。

### 名簿事務局より

この半年間で左記の方の住所が不明になりました。消息をお知りの方は関東支部事務局にご一報ください。

- |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |   |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 74 | 74 | 74 | 73 | 72 | 72 | 72 | 70 | 70 | 70 | 68 | 67 | 65 | 64 | 63 | 62 | 58 | 57 | 56 | 49 | 47 | 42 | 42 | 41 | 40 | 39 | 38 | 36 | 36 | 31 |   |
| N  | K  | O  | H  | T  | N  | H  | T  | S  | K  | T  | T  | S  | N  | K  | T  | T  | H  | N  | N  | O  | K  | K  | O  | N  | K  | S  | O  | O  | H  | K |
| 山  | 永  | 城  | 宮  | 石  | 戸  | 青  | 岡  | 坂  | 洪  | 恒  | 池  | 久  | 長  | 野  | 日  | 矢  | 吉  | 田  | 安  | 傍  | 児  | 山  | 島  | 北  | 前  | 武  | 河  | 永  | 溝  |   |
| 川  | 野  | 下  | 川  | 川  | 田  | 山  | 本  | 本  | 谷  | 石  | 本  | 松  | 崎  | 村  | 浦  | 間  | 村  | 部  | 原  | 土  | 島  | 内  | 本  | 村  | 田  | 野  | 吉  | 弘  | 雄  |   |
| 泰  | 博  | 愛  | 伸  | 晋  | 泰  | 信  | 龍  | 宏  | 由  | 知  | 昌  | 宏  | 泰  | 正  | 博  | 之  | 卓  | 史  | 淳  | 銚  | 英  | 貴  | 芳  | 修  | 宗  | 南  | 拓  | 一  | 介  |   |
| 幸  | 也  |    | 晃  | 介  | 子  | 政  |    |    | 佳  | 寿  | 弘  | 昭  | 朗  | 道  | 中  | 久  | 泰  | 雄  | 司  | 太  | 敏  | 美  | 郎  | 三  | 範  | 海  | 二  | 光  |    |   |

連絡先：関東支部事務局  
TEL 03-3587-6200 FAX 03-3587-6201 E-mail : tsuruwa@mxq.mesh.ne.jp

### 母校だより

校長 森田幸雄  
土佐独特の季節的表現とされる卯夏も終り、当地もすっかり秋の気配となりました。会員の皆様にはますますご健勝の御事とお慶び申し上げます。

さて2学期当初の伝統的行事である第52回中・高合同の大運動会は、台風18号の為3日間順延の後、去る9月26日生徒実行委員会の手により盛大に開催されました。尤も今回の延期はグラウンドコンディションの調整によるもので、昨年の大水害に伴う大幅延伸とは異なり混乱は全くありませんでした。なお今回も昨年に引き続き正副実行委員長は女子の独占となり、本校八チキンパワーの健在振りを強く印象づけました。このように貴支部愛称八チキン会諸姉の後継者達は元気に育っていますので何卒ご安心の程お願いいたします。

次に従来の中3生の修学旅行に代わる中2生集団宿泊研修が10月28日から2泊3日の日程で実施されます。いわゆる移動観光型から定地訓練

型への転換です。礼節とマナー尊重の輝かしい伝統をしっかりと体得してくれるよう、又中学生らしい元氣印の研修となるよう期待しています。それにしても1年若返りの中2生は本当に可憐な感じであり、どうかすくすくと素直に成長してほしいと願わずにはいられません。生徒のしおりに「ハジケまくるぞ」という愉快な傲もあり成果を楽しみにしております。

次に進学校として最大の課題である大学入試への取組みですが、これから期末にかけて高3生を中心に特訓や模試、プレテスト、志望校検討会等々、真剣な最終取組みが続きます。本年度の現役合格率は七四・四%と急上昇し、統計上過去最高の記録となりました。嬉しい限りですが、今後は加えて東大京大等最難関校を含むワンランク・アップ達成を目指し全力で取組んでまいりますので何卒ご声援の程お願い申し上げます。因に今年度の入試センター試験出願者は二六一名で前年を上回る約91%の出願率となりました。さてご承知のとおり来年(平成12年)は記念すべき学校創立80周年に当たります。現

在校内では記念行事実行準備会を立ち上げ、検討態勢に入ったところです。組織の概略は正副実行委員長の下に記念行事関係、記念事業関係の二つの柱を設置、それぞれに責任者(担当者)を定め、式典や祝賀行事、記念誌等の実行細目を具体的に詰めてまいることになろうと存じます。

勿論この事業は同窓先輩の皆様様の強力なご協力無くしては成り立たないものばかりであります。今後いろいろと無理なお願いを申し上げますが、是非あろつかと存じますが、是非お聞き届け頂きご支援を賜わりますようお願い申し上げます。向寒の砌、関東支部のますますのご発展と会員各位のご健勝を祈念申し上げます。学事報告とさせていただきます。

### 本部だより

幹事長 岡内紀雄(34回生)

1999年8月7日(土)  
高知新阪急ホテルにおいて、新卒74回生を含む多数の同窓の出席を得て、総会・記念講演ならびに懇親会が盛大に開催されました。

総会では、本部ならびに関

東・関西・東海・広島・香川各支部の活動報告や、収支決算・予算が承認されたほか、会則を改正(役員の数を変更)した後、役員の数を行なわれました。新役員は次の各氏です。(敬称略)

- 会長 岡村 甫 (32)
- 副会長 浅井 伴泰 (30)
- 大久保浩一 (32)
- 森木 房恵 (39)
- 川崎 康正 (42)
- 岡内 紀雄 (34)
- 副幹事長 永野 和宏 (34)
- 横田 整一 (40)
- 岡田 容典 (47)
- 西山 彰一 (48)
- 千頭 裕 (58)
- 森木 将雄 (32)
- 田中 章夫 (40)

記念講演は、20回生、元広島高検検事長で弁護士・相模女子大学理事長の竹村照雄氏による「土佐人への回帰」というテーマで、このテーマは「土佐に生れて、土佐の大地(父母の眠るところ)に帰る」ということから、「コンプレックスを持つことは決して悪いことではない。それをバネにして向上を図ることが大切である。」など、氏の生い立ちから今に至る、人格の形成に影響を与えた幾つかのエレメ

ントについて、大変興味深く、一本筋のお話をしていただきました。



懇親会は、森田校長をはじめ多数の懐かしい先生方を交えて、ソフトボール部球友会の元氣あふれる司会進行のもと、新旧同胞盆を交しつつ、思い出話に花を咲かせ、応援歌を合唱、岡村会長ならびに



母校にエールをおくりお開きとなりました。  
なお、2000年の総会は8月5日に開催いたします。関東支部のみなさま多数のご参加をお待ちしています。

### 東海支部だより

事務局長 南毅一(37回生)  
燃える前に終わった。そんな感じの今年の秋。ゴルフで言つ「待ちチョロ」になつちやつて。

しかし日本シリーズが始まる迄の1ヶ月の間は楽しかった。なんたって巨人倒しての世界一ですもの、これで日本一にでもなつたら、それこの東海の地が日本の首都になつたよな...。まっことさわがしい風がビュービューでした。そう言えば、今年の春、わが支部の総会にご出席の皆様と野球談議に花を咲かせましたネ。そこいらの熱気がわがドラゴンズを押し上げたのではなからうか。特に甲子園の元祖スター永野関西支部長には感謝しております。貴方様が「采女下るよ」になつてスズメンとドラゴンズが上昇ムードになりました。来

年の支部総会にもぜひともお越し下さい。

さて、この東海の地をさらに活性化しようと名古屋駅前のツインタワー、愛知万博、中部国際空港の建設等、大型プロジェクトが進行中です。

こんななかでの地元ドラゴンズの優勝ですから人の気持ちの盛り上がり加速され、近々名古屋経済は復活するのではないのでしょうか。そこいらの難かしい話は12月5日(日)に開催する支部忘年会で酒を酌み交わしながら土佐高OBの秀才に聞くとします。また来年来年。来年があるさ。

### 関西支部だより

幹事 中山眞智子(46回生)  
関東支部の皆様、こんにちは。関西支部の今年一年を振り返り返ってみます。

1月に、2年振りになんぷう19号を発行しました。  
2月19日(金)に、関西支部総会を新阪急ホテルにて開催。特別ゲストの中澤節子先生に、退任にあつたのお話を頂きました。6年ぶりの会計報告ができました。

3月26日、今年第1回目の幹事会・総会反省会を開き、この会で、新幹事増強を努力目標の第一としました。その結果、現在40名の幹事が関西支部を支えてくれています。

5月14日の幹事会では、会費制にて、土佐料理・いごっそう寿司で開催。9月からは、ほぼ1回のペースで幹事会を開いています。10月は、「手弁当」との支部長の提言に基づき、会費制にて、寿司弁当と発泡酒で熱のこもった幹事会を展開しました。幹事が盛り上がりれば総会は盛り上がる、をモットーに、只今来年の総会に向けて秘策を練っているところです。

### 広島支部だより

来年の関西支部総会は平成12年1月15日(土)に開催します。

会計監査 天田充(26回生) 西暦2000年を目前にして、これがいつごろの世紀末というか自然も社会も又経済界も大変な事件が続いております。

大きな被害がでました。特に、世界遺産に登録されている安芸の宮島で有名な厳島神社の一部が倒壊して、観光に生きる町が大変な影響を受けております。テレビ、新聞等でも連日金融界を取り巻く大合併劇や日産をはじめとするグローバル提携が報じられ、リストラの嵐が吹き荒れています。明治維新や日本の敗戦による社会変動は、すべて外圧による旧体制から新しい体制への移行でしたが、今、起こっている事態もまた、グローバルスタンダードという名の外圧による経済分野のスクラップ&ビルドの大改革に思えます。新しい秩序形成のための産みの苦しみと受け止め、大いなる未来に希望をもつてお互いに頑張りましょう。いよいよあと、2ヶ月で殺戮の1900年代も終わり、平和を祈念する2000年にはなります。(21世紀は2000年からですが、...)この瞬間を生きるであらう一人として感慨一人のものがあります。

### 香川支部だより

支部長 土田哲也(32回生) 関東支部の皆様には御清栄のこととお慶び申し上げます。

日時平成12年1月22日(土) 14時30分~19時30分 場所 広島県民文化センター 講演者 折衝中 学生懇親会無料(招待扱い) 11月になると準備に取り掛かり、案内状は12月中旬発送の予定です。

本年度の香川支部総会は、6月26日(土)18時から「なか座」というところで開催しました。支部創設以来お世話になった「土佐つ子」が閉店されましたので、変更した次第です。当日は雨天でしたが、来賓として、母校から森本亮教頭先生、本部から岡村甫会長、岡内紀雄幹事長、広島支部から小島一洋事務局長、関西支部から竹下和夫幹事長の皆様に出席頂きました。支部会員は、31回から70回までの27名が出席しました。

今年是全国的に長雨、台風で、早明浦ダムは満水状態の日数が記録的な長さとなり、お陰で高松は水の心配がなく夏を過ぎました。しかし、暑さは格別で、残暑という言葉がつい最近まで使われるほどでした。